

京園遺跡

ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998年3月

宮崎市教育委員会

序

近年、日本全国においては、急速な都市開発が進んでいるところであります。宮崎市においてもその例外ではなく、とくに西部一帯では宅地開発が急速に進んでおり、それとともに、貴重な自然あるいは遺跡が失われようとしております。

本書はガソリンスタンド建設に伴いまして発掘調査を行いました京園遺跡発掘調査の報告書であります。今回の調査においては平安時代の土師器や須恵器が出土したのをはじめとし、竪穴住居や土壙墓、溝状遺構などの遺構も検出されました。

本報告書が広く活用されて、これまでほとんど知られていなかった宮崎市西部における古代から中世にかけての歴史を解明するのに役に立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただいた関係機関、地元の方々、作業員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成10年3月

宮崎市教育委員会
教育長 稲倉 宗知

例 言

1. 本書はガソリンスタンド建設に伴い、平成8年10月11日～平成8年12月3日に実施した京園遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査組織

調査主体	宮崎市教育委員会	係長	井手上 仁 悟
調査総括	文化振興課	主事	岩 城 勝 志 (平成8年度)
調査庶務	"	技師	鳥 枝 誠 (平成9年度)
調査員	"	"	時 任 直 也
補助員	"	嘱託	椎 由美子
	"	"	小 川 正 子
	"	"	松 永 光 雄
	"	"	久 冨 なをみ

3. 本書の執筆は時任が行った。

4. 写真撮影は時任が行った。

5. 掲載図面の実測・製図・図版の作成は時任が行った。

6. 本書の編集は時任、久冨が行った。

7. 本遺跡出土遺物は宮崎市教育委員会で保管している。

8. 1号竪穴住居、2号竪穴住居、3号竪穴住居をそれぞれSA1、SA2、SA3と読み換えるものとする。

本文目次

I. はじめに	1
1. 遺跡の立地と環境	1
2. 調査に至る経緯	1
II. 調査の記録	3
1. 調査の概要	3
2. 遺構について	5
3. -(1) SA1の遺物について	10
(2) SA2の遺物について	10
(3) SA3の遺物について	11
(4) その他の遺構の遺物について	11
III. まとめ	17

挿図目次

第1図	遺跡周辺図	2
第2図	調査区図	3
第3図	遺構配置図	4
第4図	SA1出土状況図	6
第5図	SA2出土状況図	7
第6図	SA3出土状況図	8
第7図	1号土壌実測図	9
第8図	SA1出土遺物実測図(1)	12
第9図	SA1出土遺物実測図(2)	13
第10図	SA2出土遺物実測図(1)	14
第11図	SA2出土遺物実測図(2)	15
第12図	SA3出土遺物実測図	16
第13図	その他の遺構出土遺物実測図	16

表 目 次

第1表	SA1 出土遺物観察表	18
第2表	SA2 出土遺物観察表	19
第3表	SA3 出土遺物観察表	21
第4表	その他の遺構の出土遺物観察表	22

図 版 目 次

図版1	京園遺跡全景図	23
図版2	SA1 出土状況 (全景)	23
図版3	SA1 出土状況	23
図版4	SA1 完掘状況	24
図版5	SA1 竈	24
図版6	SA2 出土状況 (全景)	24
図版7	SA2 竈遺物出土状況	25
図版8	SA2 完掘状況	25
図版9	SA2 竈完掘状況	25
図版10	SA3 出土状況 (全景)	26
図版11	SA3 出土状況	26
図版12	SA3 竈遺物出土状況	26
図版13	SA3 完掘状況	27
図版14	SA3 竈完掘状況	27
図版15	1号土塼完掘状況	27
図版16	出土遺物 (1)	28
図版17	出土遺物 (2)	29



口絵 1 SA1 遺物出土状況



口絵2 SA3竈検出状況

I. はじめに

1. 遺跡の立地と環境 (第1図)

京園遺跡は、宮崎市内を貫流する大淀川の右岸にあたる、宮崎市西部の低丘陵地帯の裾の部分に位置している。

周辺には、県指定史跡大淀古墳群が存在する。この古墳群は現在、前方後円墳3基、円墳3基、横穴1基が指定されている。このうち、1号墳からは、粘土層と思われる土壌の一部が確認されている。また、3号墳では周溝底から4世紀末のものと思われる壺形埴輪が出土している。

大淀古墳3号墳の北約300mのところに、多宝寺遺跡があり、古墳時代の竪穴住居跡4軒、土坑2基が確認されている。出土した須恵器から6世紀中頃と思われる。

多宝寺遺跡の北150mのところに竹之下遺跡がある。この遺跡からは古墳時代の竪穴住居が10軒検出されている。出土した須恵器から6世紀後半の集落と見られている。

京園遺跡の南西約1.5kmのところには、内野々第I、第II遺跡及び大迫石塔群が存在する。内野々第II遺跡からは、住居址が3軒と溝状遺構が2条検出されている。生焼けの粘土塊や須恵器の広口壺の口縁部が粘土塊に溶着した状態で出土していること、その他、遺物の出土状況あるいは遺構の検出状況から見て、住居内において土器の生産が行なわれていたことが考えられる。また、これらの出土土器から平安時代初期(9世紀)の遺跡と推定されている。大迫石塔群に関しては天正19年(1591)の石塔が最古であり、これらの石塔に共通して特定の梵字や特定の職名が刻まれていることから、旧大塚村の真言宗大迫寺との関係が注目される。

さらに、この地域に不可欠のものとして宇佐官領大墓別符があげられるであろう。宮崎市においては八条女院領と宇佐官領とこのふたつで荘園の大半を占めているが、このうち大塚町に関して言えば、建久8年には20町ほどが宇佐官領となっており、宇佐官領大墓別符とよばれていた。このように、大塚町京園を取り巻く環境は宇佐官領、八条女院領等の巨大荘園の影響が非常に大きい。

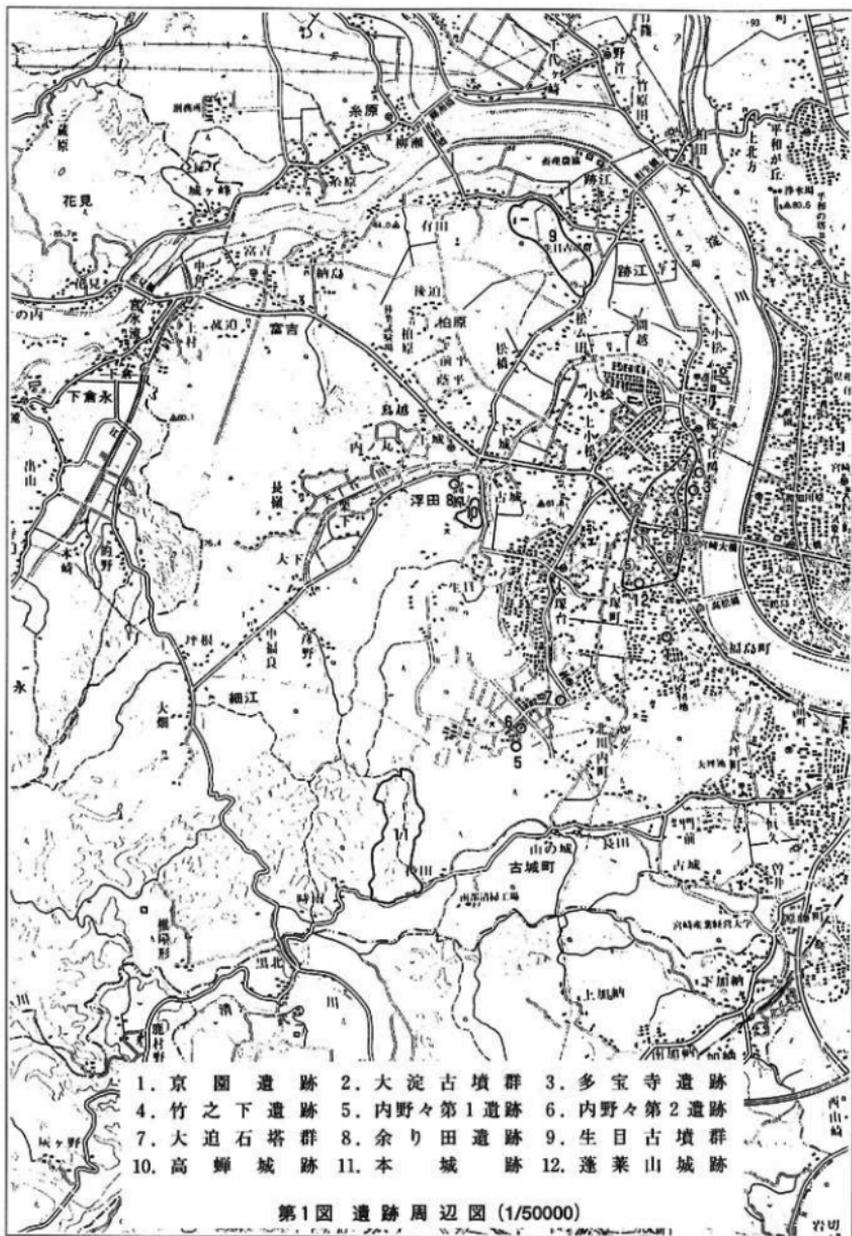
【参考文献】

- 宮崎市教育委員会・宮崎県住宅供給公社「内野々第I遺跡、内野々第II遺跡、石仏・石塔調査」
「生目台住宅団地計画区域内埋蔵文化財等調査報告書」1982
「宮崎県史-資料編 考古 2-」宮崎県編 1994
「日本地名大辞典-45 宮崎県-」角川書店編 1983

2. 調査に至る経緯

平成8年3月4日、大塚町京園3195番地外4筆においてガソリンスタンド建設に伴い、埋蔵文化財の有無照会が提出された。

これを受け、宮崎市文化振興課が平成8年3月14日に試掘調査を実施した結果、遺構・遺物が確認されたため発掘調査が必要であるということになり、設計業者の[]株式会社と協議を行った。協議の結果、道路よりも高くなっている部分について発掘調査を実施することとなった。その後、[]株式会社より、埋蔵文化財の発掘届けが提出され、平成8年10月11日～平成8年12月3日までの期間で現場作業を行った。



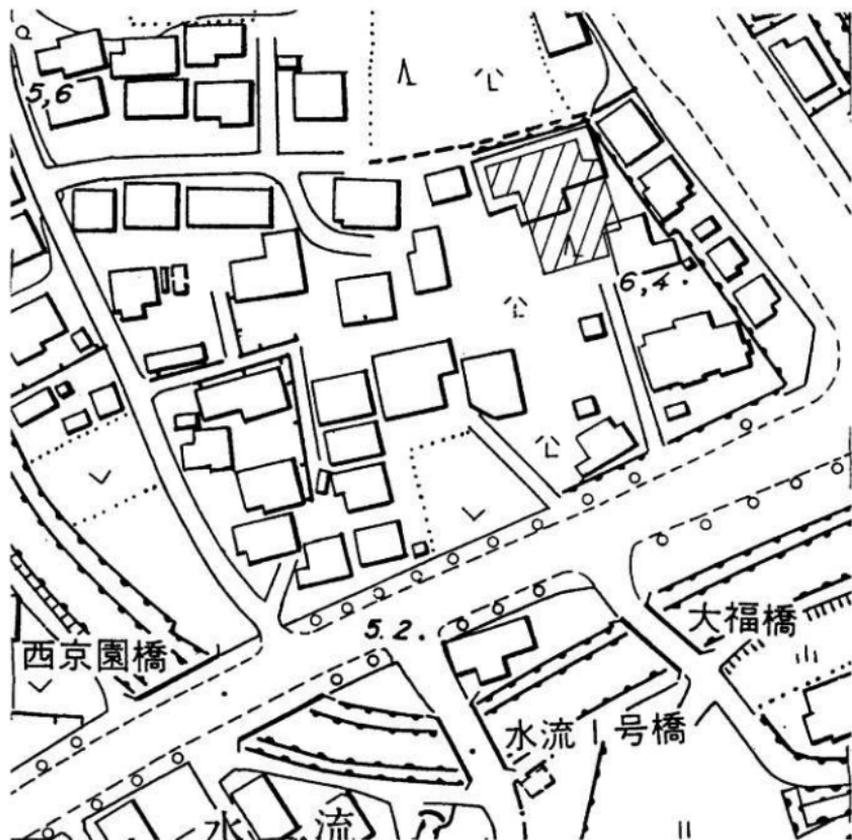
II 調査の記録

1. 調査の概要 (第2、3図)

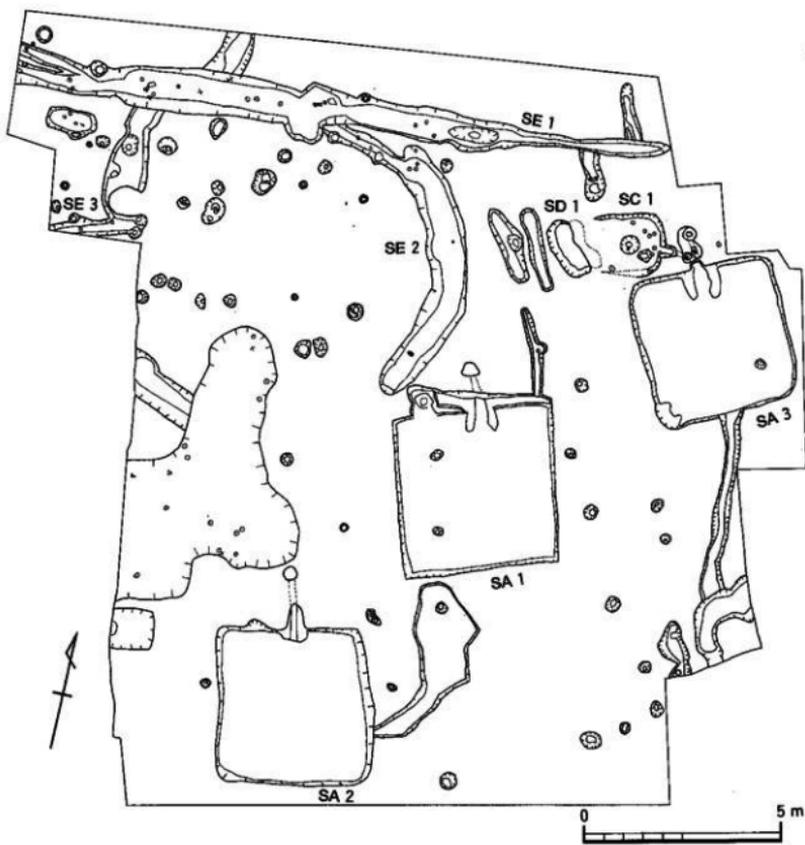
今回は調査対象面積1500m²のうち、道路よりも高くなっている部分約600m²について発掘調査を実施した。その結果、竪穴住居が3軒、土壇が1基、竪穴状遺構が1基、溝状遺構が9条検出された。

このうち、竪穴住居に関しては、いずれも方形プランを呈し、北壁に竈が付設されていた。さらに竈に関して言えば、煙道が緩く下降した後、竪穴住居から約1m離れたところで垂直に立ち上がり開口するという特徴がある。

出土遺物については竪穴住居に伴って、土師器の坏が多数出土している。この他、数は少ないものの皿や甕、須恵器片等も出土している。



第2図 調査区図



第3図 遺構配置図

2. 遺構について

1号竪穴住居（第4図）

調査区の中央部に位置する。検出面から床面までの深さは約30cmを測り、規模は東西3.8m、南北4mの方形のプランを呈する。住居西側にピットが2基検出され、住居北壁中央部に竈が付設されている。

竈は東側袖部の幅17cm、長さ50cm、西側袖部の幅12cm、長さ50cm、火袋袖部の幅約50cmを測り、両端部は丸くなっている。また、煙道は長さ1.2m、幅25cmで北のほうへ向かって、緩やかに下降し、1段落ちて垂直に立ち上がり開口している。

遺物については、1号竪穴住居の北東隅から甕が2つ重ねられた状態で出土しているのをはじめ、土師器の坏、皿、須恵器の甕の胴部が、1号竪穴住居のほぼ全面で出土している。

2号竪穴住居（第5図）

1号竪穴住居の南西側に位置する。東西4m、南北4mの正方形のプランを呈するが、コーナーについては隅丸である。床面については、住居のやや南側、中央部、それに東側から北東部を経て北側に至る部分は、その大部分が重機等によってかなり攪乱されてははっきりしないものの、検出面から床面までの深さはおよそ40cmになるのではないと思われる。また、ピット状の落ち込みは検出されたものの、柱穴とは断定しがたいものがある。さらに、住居の北壁中央部に竈が付設されていた。

この竈は火袋袖部の幅約40cm、東側の袖部の現存長約20cm、幅が約25cm、西側の袖部の現存長約25cm、幅が約20cmを測るが、1号竪穴住居のものに比べると短くなっている。煙道は長さ80cm、幅15cmでこの竈の煙道も緩く下降し、住居から約1.4mほど離れたところで垂直に立ち上がり開口する。また、この竈の煙道部分から5つの坏がほぼ完全な形で、しかも5つを伏せて重ねた状態で出土している。

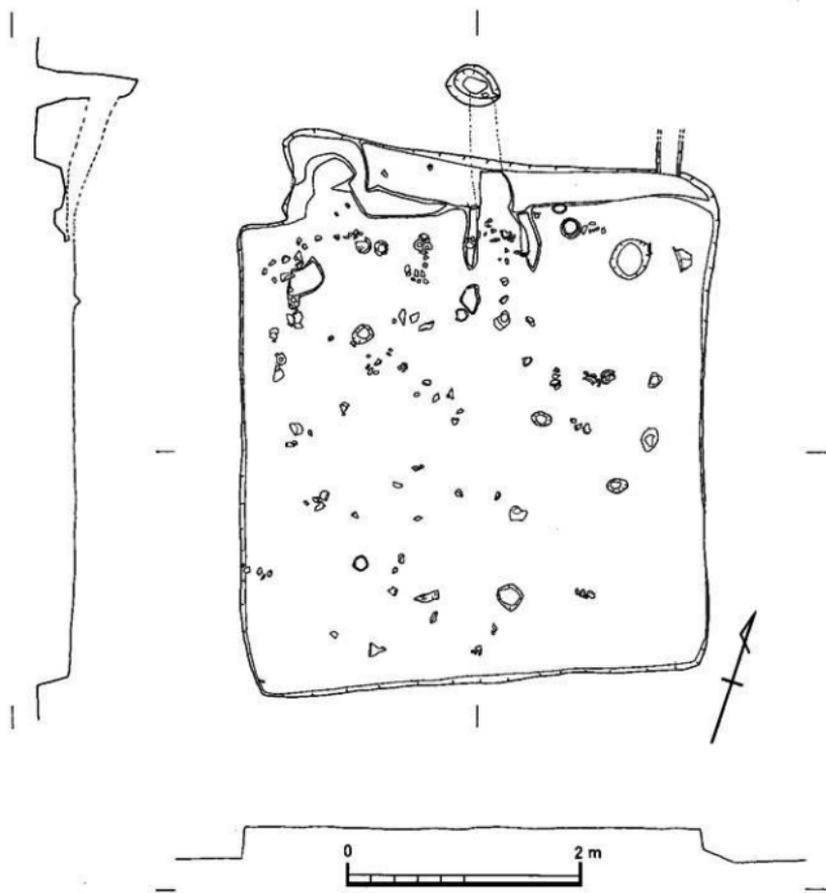
また、この他の遺物については土師器の坏や皿、甕の口縁部等が、2号竪穴住居のほぼ全面で出土している。

3号竪穴住居（第6図）

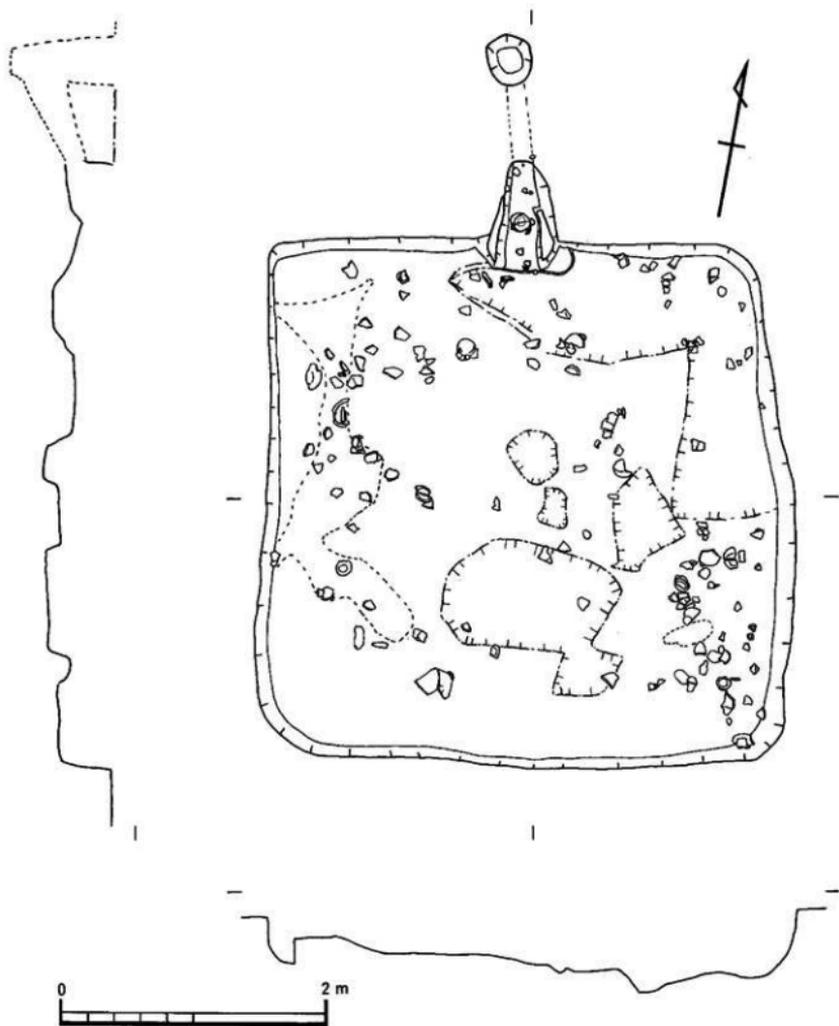
1号竪穴住居の北東側に位置する。東西3.8m、南北3.8mの正方形プランを呈するがコーナーについては隅丸である。検出面から床面までの深さは約26cm、住居の南東側にピットが1基検出された。

また、住居北壁中央部に竈が付設されていた。竈の火袋袖部の幅90cm、東側袖部の幅30cm、長さ80cm、西側袖部の幅30cm、長さ60cmを測る。北の方向に幅約10cmの煙道が掘られていて、住居から約50cm離れたところで垂直に立ち上がり開口している。さらに煙道は北の方向に掘り進められた後、住居から約90cm離れたところで垂直に立ち上がり、開口する。また、竈の両袖の先端部分に甕の胴部片が埋め込まれた状態で出土している。

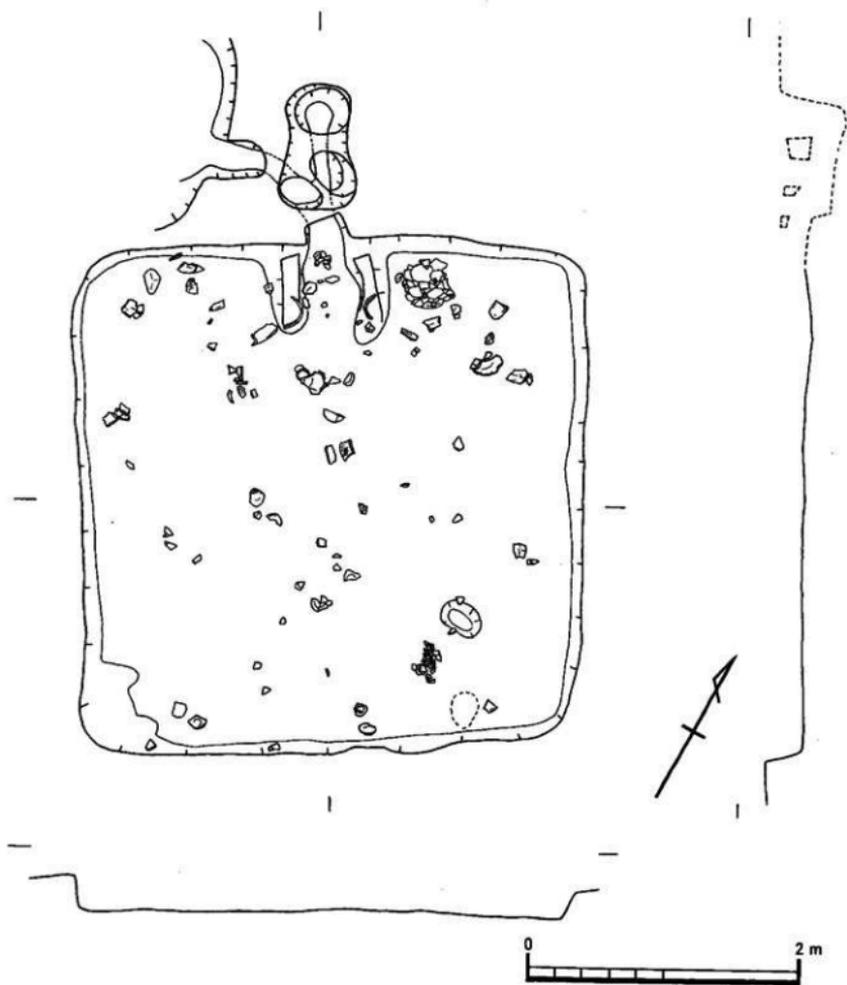
遺物については、竈の両袖から出土した甕形土器の他、ほぼ住居全体の床面から約5～10cmの位置で坏、甕等が出土している。



第4図 SA1出土状況図



第5图 SA 2出土状况图



第6图 SA3出土状况图

1号土壌 (第7図)

3号竪穴住居の北西に位置する。長軸1.5m、短軸70cm、深さ50cmの竪穴を掘って幅40cmのテラスが検出され、さらに東側に向かって約30cm、南北約1.3mの玄室状の掘り込みも確認された。

遺物としては楕円形を呈した軽石が床面で出土したのみである。

1号竪穴状遺構

3号竪穴住居の北西側に位置し、南北1.6mを測る。東側の検出面から床面までは深さ12cmを測るが、西に行くにつれて深みはなくなり、1号土壌のすぐ東側では完全に落ち込みが消えていた。また、南東方向にはトンネル状の掘り込みがあり、焼土が確認されている。

遺物としてはそのほとんどが小片であるが、1号竪穴状遺構の南西隅の床面より器壁内面が黒色を呈したほぼ完形の鉢形土器が伏せた状態で出土している。

1号溝状遺構

調査区の最も北側に位置する。幅1.2m、深さ20cmを測り、調査区を東西に貫いている。

遺物としては、溝状遺構のほぼ全域の、割に高い位置から、土師器や須恵器の小片が出土している。

2号溝状遺構

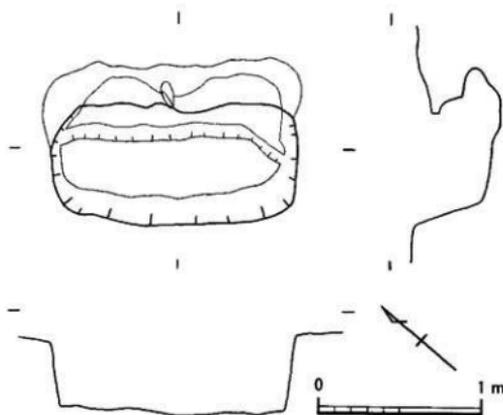
1号住居の北西に位置する溝で幅1m、深さ17cmを測る。溝は1号住居の北西角付近を通り、弧を描きながら掘り込まれ、北側の端は1号溝状遺構と切り合っている。しかし調査区西側に検出されている幅86cm、深さ19cmを測る溝状遺構と2号溝状遺構がつながることは十分考えられる。

遺物としては、ほぼ上端と同じ高さより軽石、土師器片が出土している。

3号溝状遺構

調査区の最も西側に位置し、幅40cm、深さ15cmを測る。溝は調査区内西側壁から北東方向に伸びる。

遺物は溝状遺構の上端とほぼ同じ高さで土師器の小片が出土している。



第7図 1号土壌実測図

3. 遺物について

(1) SA1の遺物(第8、9図)

土師器

1~16は坏である。3は底部をヘラ切りしたあとに、ナデを施している。1~7はやや上げ底気味になっていて、中央部に向かって窪んでいる。

17は甔の把手である。牛角状を呈し、ナデによる整形をしている。

18・19は皿である。大型の皿で、18は口径17.6cm、19は16.5cmを測る。18は底部がやや上げ底気味になっている。

20~23は甕である。20は底部が木の葉底である。21は底部が丸くなり、外面の一部には爪でつけたような傷が見られる。22は口縁部が緩く外反し、内外面ともに調整はナデである。23は「く」の字型に外反し、内面にハケメ調整が施されている。22は住居の床面から、23はその上に重ねられた状態で出土している。

布痕土器

24は鉢である。内面には布目圧痕がみられる。

須恵器

25は長到壺の胴部である。間隔をあけて2本の沈線が見られる。

26は甕の胴部である。内外面ともにタタキが施されている。

土製品

27~34は両端穿孔土錘である。端部に穿孔を有しているが、31がそうであるように、両端部に穿孔を有していたことが推測される。住居の床面から約30cmの位置で出土している。

黒色土器

35は碗の口縁部である。内面は黒色を呈し、調整はミガキである。

(2) SA2の遺物(第10、11図)

土師器

1~23は坏である。2・3・4・6・14は竈の煙道部から、5つが伏せて重ねられた状態で出土している。その他は竪穴住居全体の床面から約5~10cmの位置で出土している。

24~28は甕である。24~27は口縁部がゆるやかに外反する。一方、28は口縁部が「く」の字型に外反する。24・25は輪積み痕がわずかに認められる。24・28が床面から約5cmの位置で、それ以外は床面から約20~30cmの位置で出土している。

29は壺である。つまみを有する。須恵器の坏蓋を模していると見られる。住居南東側の床面から約5cmほどの位置で出土している。

布痕土器

30~36は鉢である。内面に布目圧痕が見られるが、30・31・36については磨滅のため、布目圧痕の一部が消えている。

須恵器

37は碗の底部である。高さ7mmの高台をもつ。住居南東側の床面から約5cmほどの位置で出土している。

(3) SA3の遺物(第12図)

土師器

1~12は坏である。6を除いては、やや上げ底気味になっている。8・9・10においては底部をヘラ切りした後でナデ消した跡が見られるが、その他はヘラ切りした跡が見えないほどきれいにナデ消している。これらの坏は住居内のほぼ全面で、しかも床面から約5cmほどの位置で出土している。

2は底部の内面に「縣」とみられる文字が刻まれ、底部外面は、ヘラ切りをした痕がそのまま残っている。床面から約5cmほどの位置で出土している。

13~15は甕である。13、14は口縁部で、口縁部は強く外反している。

須恵器

16は脚部の低い高坏と思われる。住居中央部のほぼ床面から出土している。

17は甕の胴部である。調整は内外面ともにタタキである。住居のほぼ中央部の床面から約5cmほどのところで出土している。

布痕土器

18は鉢の口縁部である。内面に布目圧痕が見られる。住居北東側の床面から約5cmの位置で出土している。

土製品

19は両端穿孔土錘の完形品である。住居北西側のほぼ床面から出土している。

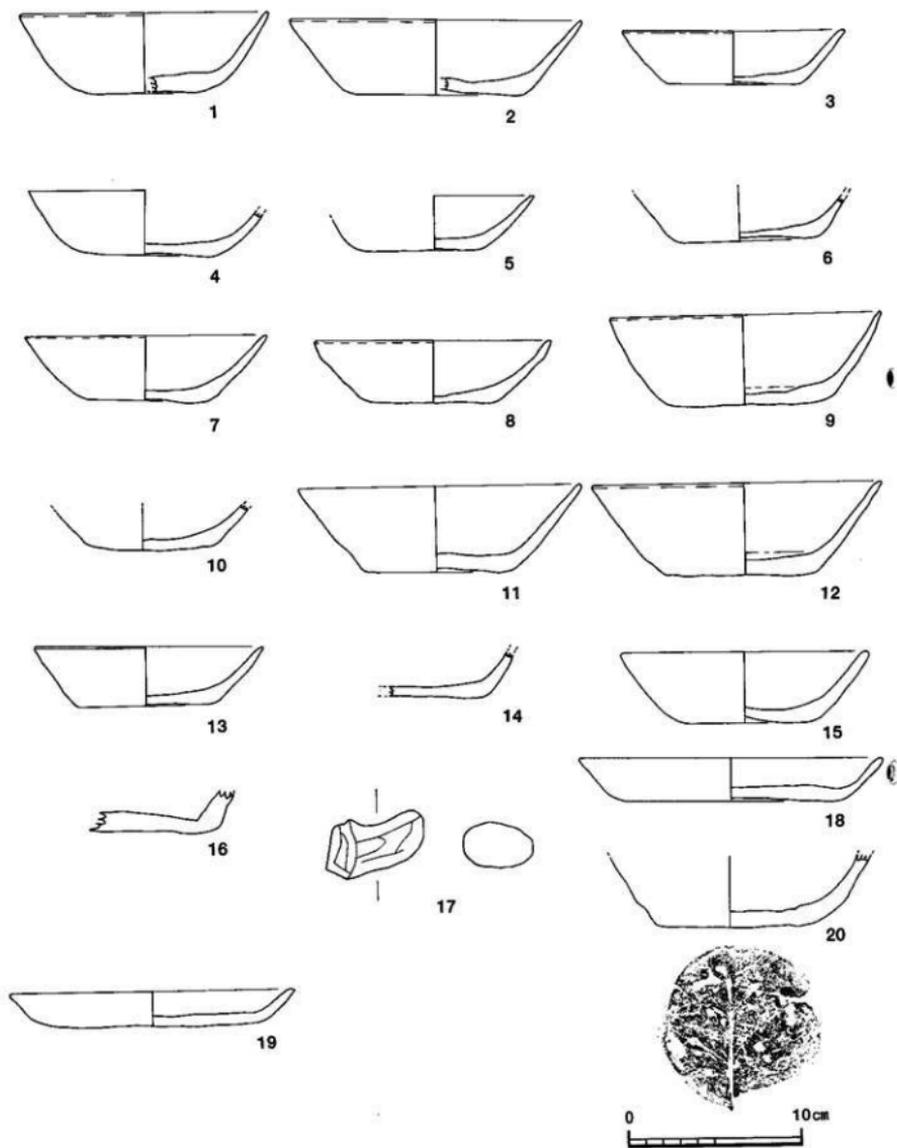
(4) その他の遺構の遺物について(第13図)

黒色土器

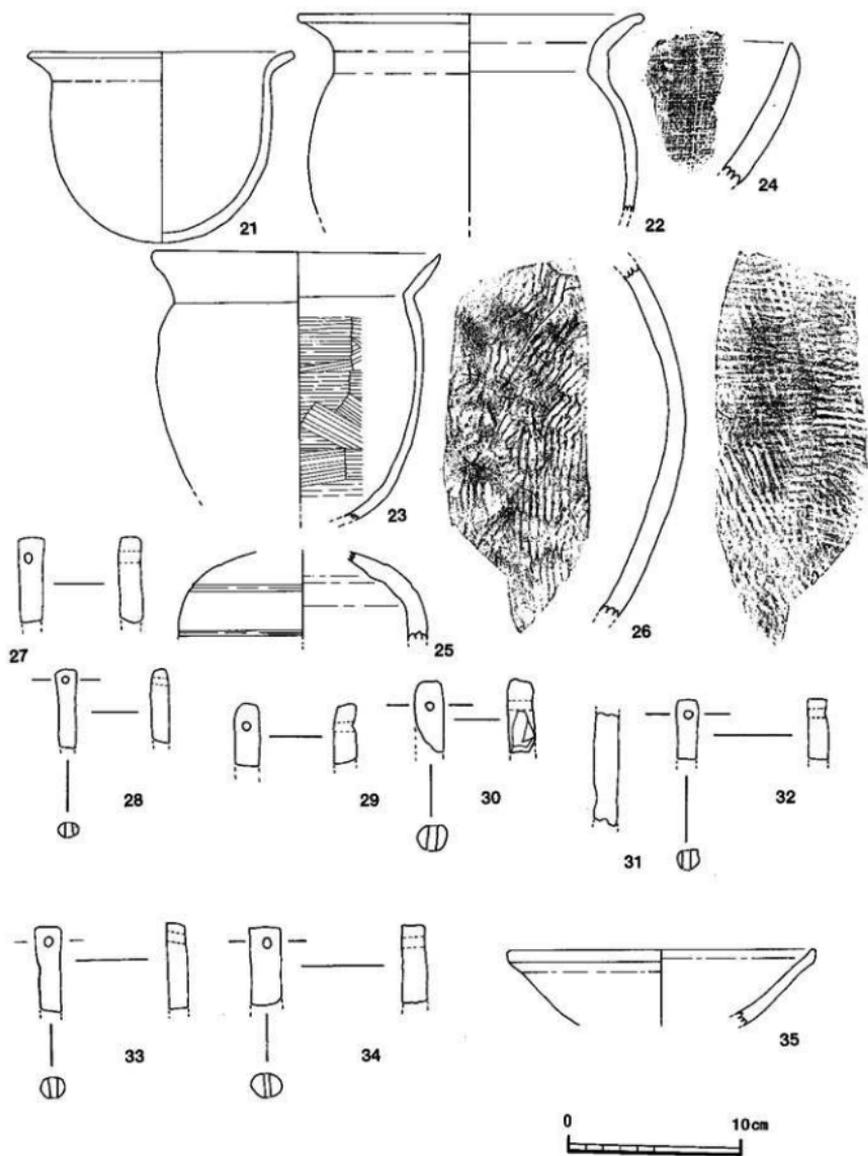
1は鉢である。口径22cmを測る大型のもので、底部はやや上げ底である。内面のみ黒色で、調整は外面が回転ナデ、内面はヘラミガキである。1号竪穴状遺構南西隅付近の床面より逆さに伏せた状態で出土した。

須恵器

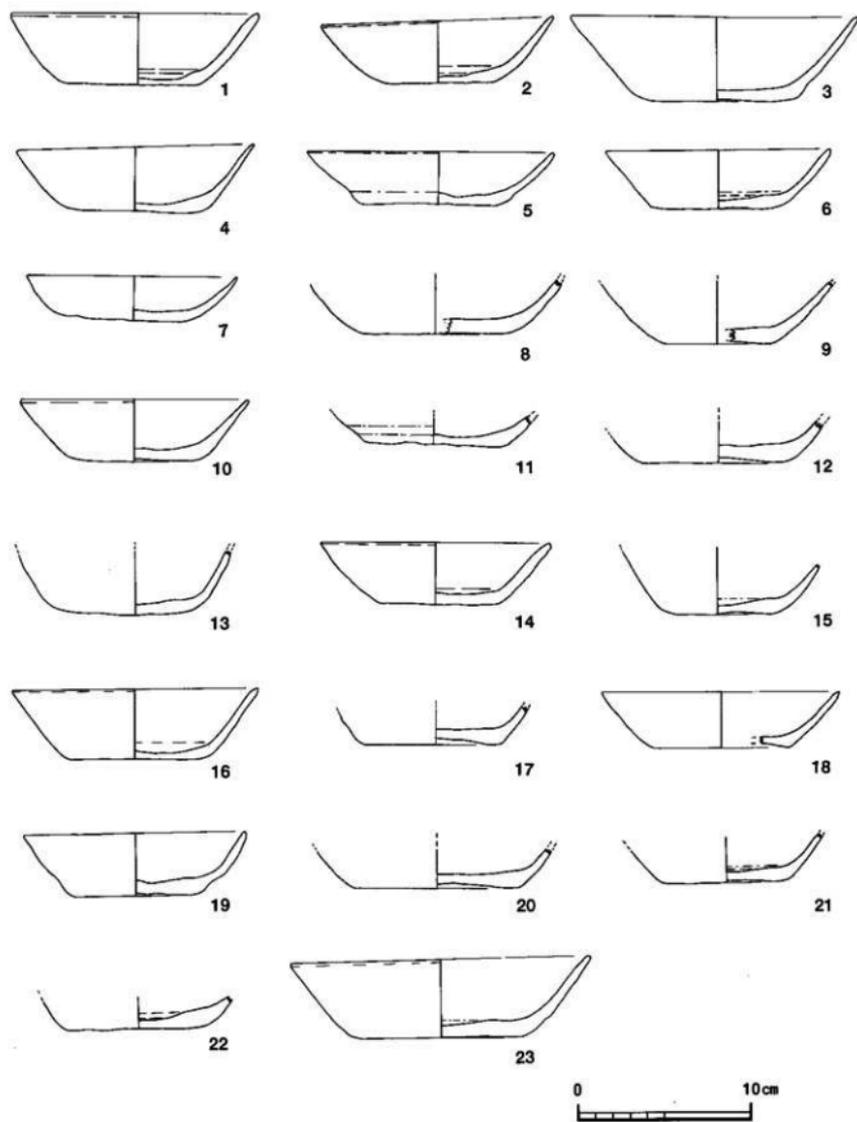
2は甕の胴部である。外面には格子目タタキ、内面には平行タタキが施してある。1号溝状遺構の底から約20cmほどのところで出土している。



第8图 SA 1出土遗物实测图(1)



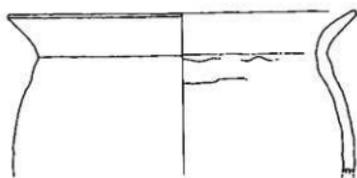
第9图 SA 1出土遺物実測图(2)



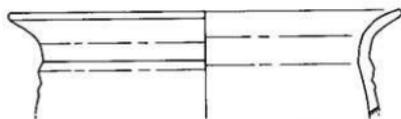
第10图 SA 2 出土遗物实测图 (1)



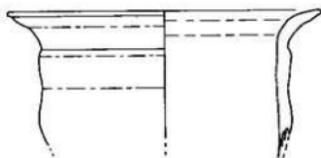
24



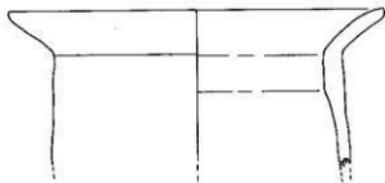
25



26



27



28



29



30



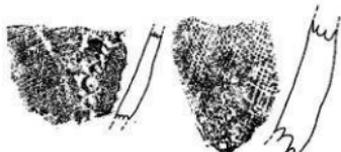
31



32



33



34



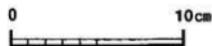
35



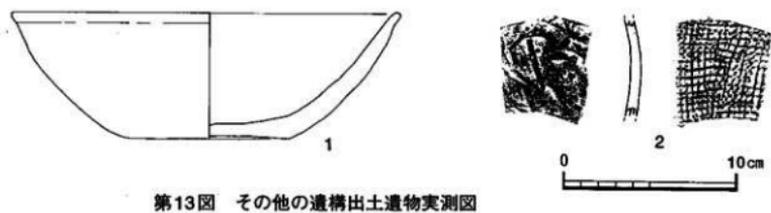
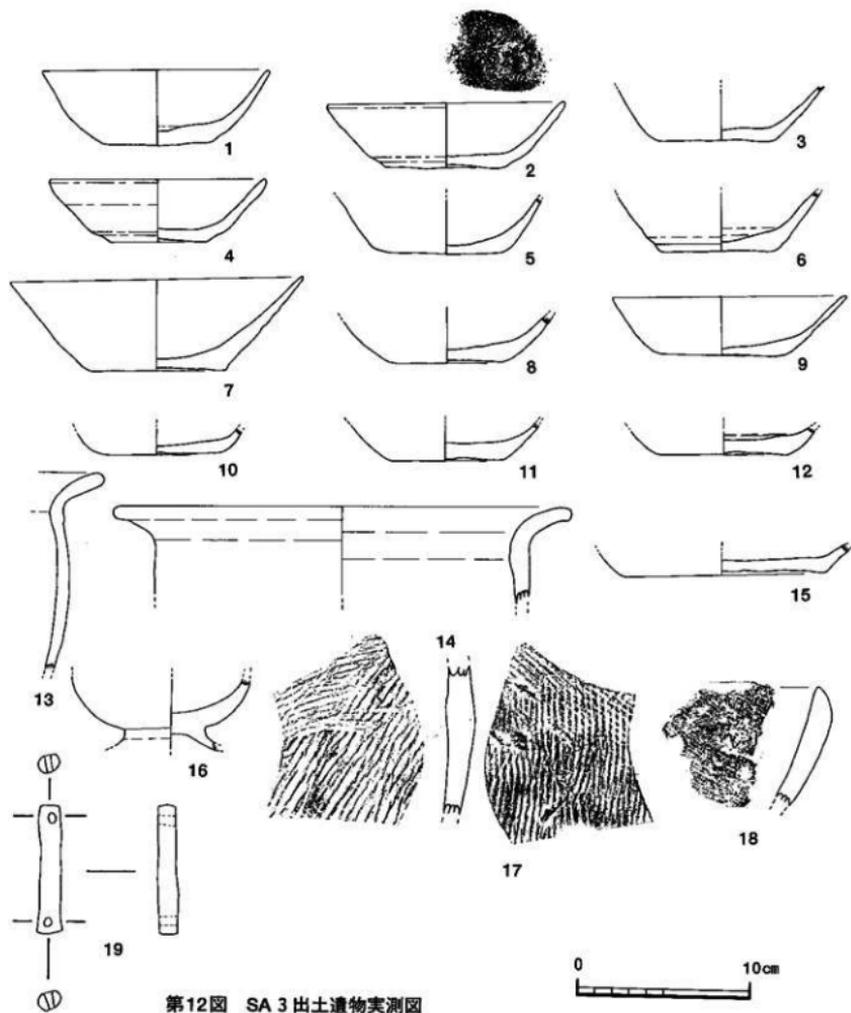
36



37



第11图 SA 2 出土遺物実測図 (2)



Ⅲ. まとめ

今回の京園遺跡の発掘調査では、3軒の竪穴住居、1基の土壇墓、1基の竪穴状遺構、9条の溝状遺構が検出された。

各住居の共通の特徴として、北壁中央に、屋外に延びる煙道をもつ竈を付設していることが挙げられる。しかも、その煙道は緩やかに下降し、住居からおよそ1m離れたところで垂直に立ち上がっている。同様な例は、宮崎学園都市遺跡群の下田畑遺跡や赤坂遺跡に見ることができる。このうち、3号竪穴住居に関しては竈の煙道が北のほうへ延びた後、住居から約50cmのところまで垂直に立ち上がっている。しかし、3号竪穴住居から約90cm離れた部分からも焼上が確認されたことから、煙道をさらに北のほうに延長して、煙が効率的に出ていくようにしていたのではないかとと思われる。

さらに、1号竪穴状遺構から3号竪穴住居のほうへ向けてトンネル状の掘り込みが設けられており、竪穴状遺構の南東約70cmのところまで垂直に立ち上がる。この部分より焼土が確認されたことから、竪穴状遺構の部分に竈状の施設があって、そこから南東方向に煙道を設けていたのではないかとと思われる。また、これらの前後関係については、竪穴住居よりも竪穴状遺構のほうが若干新しいものと考えられる。

注目される遺物としては1号・3号竪穴住居から両端穿孔土鍾が出土している。この土鍾は鹿児島県の七社遺跡出土の両端穿孔土鍾と類似する。この土鍾は、入り江に固定した刺網の端部と沈子網をつなぐものとして利用されていたと「神川堤第一地点遺跡」(鹿児島大学工学部危険物薬品庫改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)の中で、下山氏は推定している。京園遺跡においても、沈子として使われていたと思われる紡錘状土鍾は出土していないものの、両端穿孔土鍾の網の先端と沈子網をつなぐという用途は、鹿児島県の場合とかわりないものと思われる。

つづいて遺跡の年代についてであるが、1号竪穴状遺構の南東側より出土している内黒土器や1号竪穴住居より出土している甕、2号竪穴住居あるいは3号竪穴住居より出土している土師器の坏の形状等から9世紀中葉～後葉と比定される。

以上、京園遺跡の遺構、遺物、年代等についてまとめてきたが、各竪穴住居の竈の煙道の構造や1号竪穴状遺構の性格等の問題が残った。今後、周辺の調査によって資料が増えることで当遺跡との比較検討がなされるであろう。

最後になりましたが、発掘調査に当たりご協力いただいた地元の方々や業者の方々、寒風吹く中、作業して頂いた皆様に感謝いたします。

【参考文献】

宮崎県教育委員会「下田畑遺跡、小山尻東遺跡、田上遺跡、赤坂遺跡、小山尻西遺跡」

「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第3集」1985

宮崎県埋蔵文化財センター「余り田遺跡」[一般国道10号宮崎西バイパス建設事業に伴う発掘調査報告書(2)]1997

宮崎市教育委員会・宮崎県住宅供給公社「内野々第Ⅰ遺跡、内野々第Ⅱ遺跡、石仏・石塔調査」

「生日台住宅団地計画区域内埋蔵文化財等調査報告書」1982

太宰府市教育委員会「大宰府条坊跡Ⅰ」1996

SA1 出土遺物観察表

遺物 No.	種 類 器 種	法 量 (cm)	器面調整		色 調	備 考
			外 面	内 面		
1	土師器 杯	口径—14.5 器高—4.7	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	
2	土師器 杯	口径—17 器高—4.4	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	
3	土師器 杯	口径—12.9 器高—3.1 底径—7.7	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—褐灰色	
4	土師器 杯	底径—4.1	回転ナデ	回転ナデ	外面—灰赤色 内面—灰赤色	
5	土師器 杯	底径—6.2	回転ナデ	回転ナデ	外面—灰赤色 内面—橙色	ヘラ切り底
6	土師器 杯	底径—7.5	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	
7	土師器 杯	口径—14 器高—3.8 底径—6.7	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	
8	土師器 杯	口径—13.7 器高—3.7 底径—7	回転ナデ	回転ナデ	外面—にぶい橙色 内面—にぶい橙色	ヘラ切り底
9	土師器 杯	底径—7.2	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	ヘラ切り底
10	土師器 杯	底径—7.0	回転ナデ	回転ナデ	外面—にぶい橙色 内面—にぶい赤褐色	ヘラ切り底
11	土師器 杯	底径—7.4	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	ヘラ切り底
12	土師器 杯	口径—13.3 器高—3.4 底径—7.6	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	ヘラ切り底
13	土師器 杯	口径—16.8 器高—5.4	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—明赤褐色	ヘラ切り底
14	土師器 杯		回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄橙色 内面—浅黄橙色	
15	土師器 杯	口径—14.4 器高—4.1	回転ナデ	回転ナデ	外面—赤褐色 内面—赤褐色	
16	土師器 杯		ナデ	ナデ	外面—黄白色 内面—黄白色	
17	土師器 甌		ナデ	ナデ	浅黄橙色	牛角把手
18	土師器 皿	口径—17.6 器高—2.5 底径—12.0	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	
19	土師器 皿	口径—16.5 器高—2.0 底径—12.5	回転ナデ	回転ナデ	外面—橙色 内面—橙色	
20	土師器 壺	底径—8.2	回転ナデ	回転ナデ	外面—灰赤色 内面—褐灰色	木の葉底
21	土師器 壺	口径—15.5 器高—11.2	回転ナデ	回転ナデ	外面—にぶい橙色 内面—褐灰色	
22	土師器 壺	口径—20.1	ナデ	ナデ	外面—浅黄橙色 内面—浅黄橙色	

遺物 No.	種 類 器 種	法 量 (cm)	器面調整		色 調	備 考
			外 面	内 面		
23	土師器 壺	口径-16.7	ナデ	ハケメ	外面-浅黄褐色 内面-浅黄褐色	
24	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-暗青灰色 内面-暗青灰色	
25	須恵器 長頸壺		回転ナデ	回転ナデ	外面-青灰色 内面-青灰色	体部に2本の沈線を有する
26	須恵器 壺		平行タタキ	平行タタキ	外面-青灰色 内面-青灰色	
27	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	青灰色	
28	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
29	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
30	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
31	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
32	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
33	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
34	土師器 両端穿孔土鐘		ナデ	ナデ	浅黄褐色	
35	土師器 椀	推定口径-12.9	回転ナデ	ミガキ	外面-浅黄褐色 内面-黒色	

SA 2 出土遺物観察表

遺物 No.	壺 類 器 種	法量 (cm)	胎面調整		色 調	備 考
			外 面	内 面		
1	土師器 坏	推定口径-14.3 推定器高-4.2 有径-7.6	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
2	土師器 坏	推定口径-13.4 推定器高-3.6 有径-6.4	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
3	土師器 坏	口径-16.6 器高-4.9 底径-9.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
4	土師器 坏	口径-13.7 器高-3.9 底径-7.7	回転ナデ	回転ナデ	外面-にぶい橙色 内面-にぶい橙色	
5	土師器 坏	口径-14.2 器高-3.1 有径-7.7	回転ナデ	回転ナデ	外面-にぶい橙色 内面-にぶい橙色	ヘラ切り底
6	土師器 坏	口径-13.0 器高-3.4 底径-7.3	回転ナデ	回転ナデ	外面-にぶい橙色 内面-にぶい橙色	ヘラ切り底
7	土師器 坏	推定口径-12.2 器高-2.6 底径-7.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	ヘラ切り底
8	土師器 坏		回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	ヘラ切り底
9	土師器 坏		回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
10	土師器 坏	口径-13.2 器高-3.5 底径-7.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
11	土師器 坏	底径-8.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
12	土師器 坏	底径-8.3	回転ナデ	回転ナデ	外面-にぶい橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
13	土師器 坏		回転ナデ	回転ナデ	外面-にぶい橙色 内面-にぶい橙色	ヘラ切り底
14	土師器 坏	口径-13.4 器高-3.6 底径-6.9	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	ヘラ切り底
15	土師器 坏	底径-6.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
16	土師器 坏	口径-14.2 器高-4.1 底径-7.7	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	ヘラ切り底
17	土師器 坏	底径-7.8	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
18	土師器 坏	推定口径-13.7 器高-3.3	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
19	土師器 坏	口径-12.8 器高-3.7 底径-7.1	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
20	土師器 坏	底径-9.4	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	
21	土師器 坏	底径-6.9	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
22	土師器 坏	底径-7.8	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底

遺物 No.	種類 器種	法量 (cm)	器面調整		色調	備考
			外面	内面		
23	土師器 坏	口径-17.4 器高-45 底径-9.7	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
24	土師器 壺	推定口径-14.4	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
25	土師器 壺	推定口径-20.2	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-にぶい黄橙 色	
26	土師器 壺	推定口径-12.8	ハケメ 回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
27	土師器 壺	推定口径-18.2	ハケメ 回転ナデ	ハケメ 回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
28	土師器 壺	推定口径-21.8	不明	不明	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
29	土師器 蓋	口径-15 器高-3.3	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	一部ヘラ切り
30	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-赤褐色 内面-赤褐色	
31	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-赤褐色 内面-赤褐色	
32	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-赤褐色 内面-褐灰色	
33	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-赤褐色 内面-赤褐色	
34	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-赤褐色 内面-赤褐色	
35	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-赤褐色 内面-赤褐色	
36	土師器 鉢		ナデ	布目圧痕	外面-橙色 内面-橙色	
37	須恵器 椀	底径-9.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-青灰色 内面-青灰色	

SA 3 出土遺物観察表

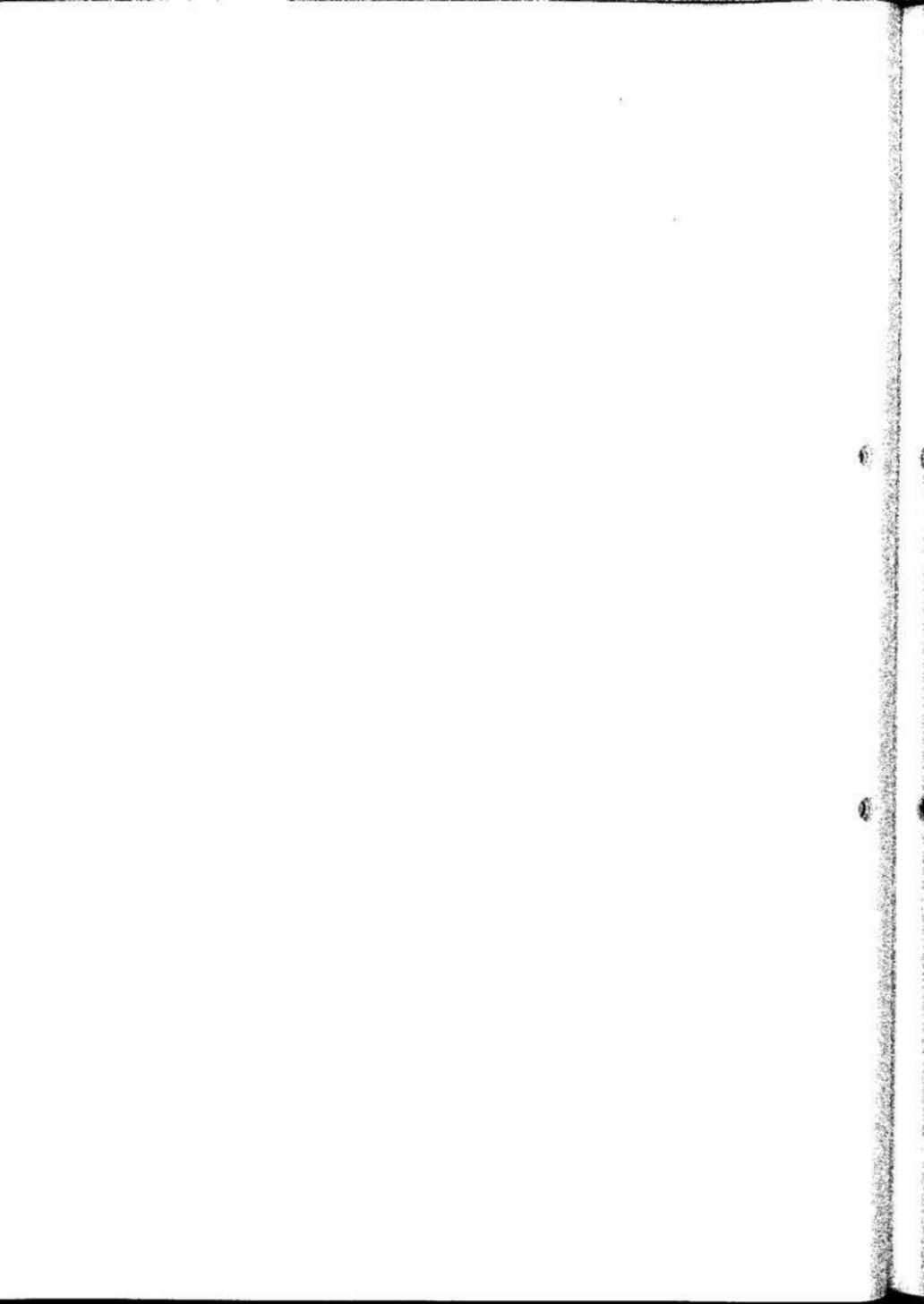
遺物 No.	種類 器種	法量 (cm)	器面調整		色調	備考
			外面	内面		
1	土師器 坏	口径-13.1 器高-4.4 底径-6.4	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
2	土師器 坏	口径-13.9 器高-3.9 底径-7.0	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底
3	土師器 坏	口径-6.9	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
4	土師器 坏	推定口径-12.5 推定器高-3.7 底径-5.6	回転ナデ	回転ナデ	外面-浅黄橙色 内面-浅黄橙色	
5	土師器 坏	底径-7.1	回転ナデ	回転ナデ	外面-橙色 内面-橙色	ヘラ切り底

遺物 No.	種 類 器 種	法量 (cm)	器面調整		色 調	備 考
			外 面	内 面		
6	土師器 杯	底径—7.0	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄橙色 内面—浅黄橙色	
7	土師器 杯	口径—17.0 器高—5.4 底径—7.7	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄橙色 内面—浅黄橙色	
8	土師器 杯	底径—6.6	回転ナデ	回転ナデ	外面—赤褐色 内面—赤褐色	ヘラ切り底
9	土師器 杯	口径—13.6 器高—3.6 底径—7.0	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄橙色 内面—浅黄橙色	ヘラ切り底
10	土師器 杯	底径—6.8	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄橙色 内面—褐色	ヘラ切り底
11	土師器 杯	底径—6.5	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄橙色 内面—浅黄褐色	ヘラ切り底
12	土師器 杯	底径—7.5	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄褐色 内面—浅黄褐色	
13	土師器 壺		不明	回転ナデ	外面—にぶい褐色 内面—浅黄褐色	
14	土師器 壺	推定口径—26.5	不明	回転ナデ	外面—にぶい褐色 内面—浅黄褐色	
15	土師器 皿	底径—11.5	回転ナデ	回転ナデ	外面—浅黄褐色 内面—浅黄褐色	
16	土師器 高杯		回転ナデ	回転ナデ	青灰色	
17	土師器 壺		平行タタキ	平行タタキ	外面—青灰色 内面—青灰色	平行タタキ
18	土師器 鉢		ナデ	布目疋痕	外面—褐色 内面—褐色	
19	土師器 両端穿孔土鏡		ナデ		浅黄褐色	

その他の遺構出土遺物観察表

遺物 No.	種 類 器 種	法量 (cm)	器面調整		色 調	備 考
			外 面	内 面		
1	土師器 鉢	口径—22.6 器高—7.3 底径—9.3	回転ナデ	ミガキ	外面—浅黄褐色 内面—黒色	
2	須恵器 壺		格子目タタキ		外面—青灰色 内面—青灰色	格子目タタキ

圖 版





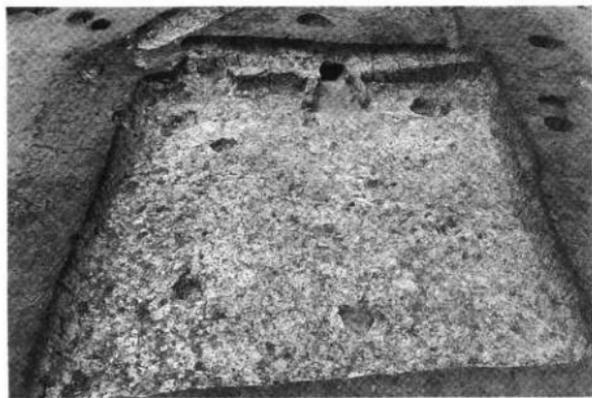
图版 1
京園遺跡全景図



图版 2
SA 1 出土状況 (全景)



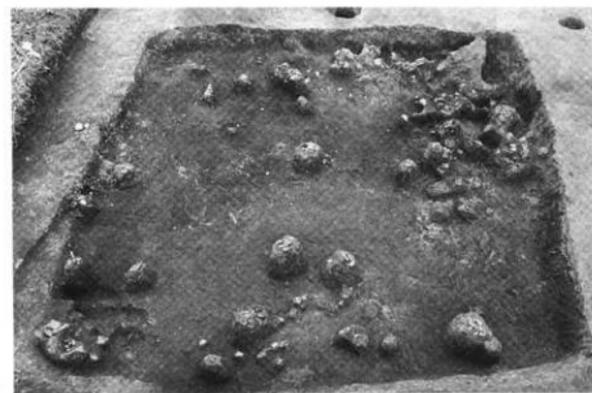
图版 3
SA 1 出土状況



図版 4
SA 1 完掘状況



図版 5
SA 1 竈



図版 6
SA 2 出土状況 (全景)



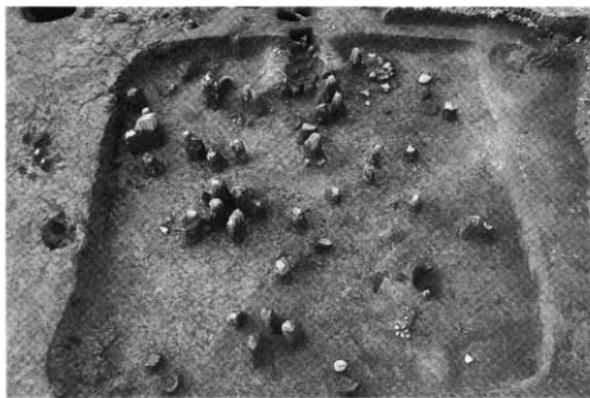
図版 7
SA 2 竈遺物出土状況



図版 8
SA 2 完掘状況



図版 9
SA 2 竈完掘状況



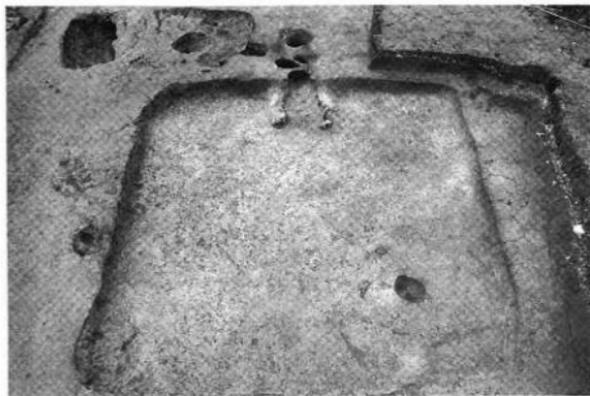
図版10
SA 3 出土状況 (全景)



図版11
SA 3 出土状況



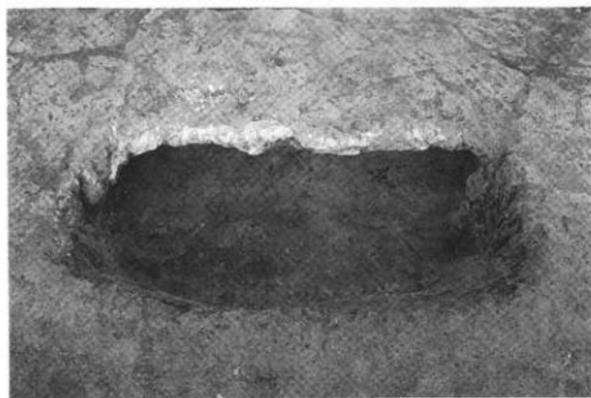
図版12
SA 3 電遺物出土状況



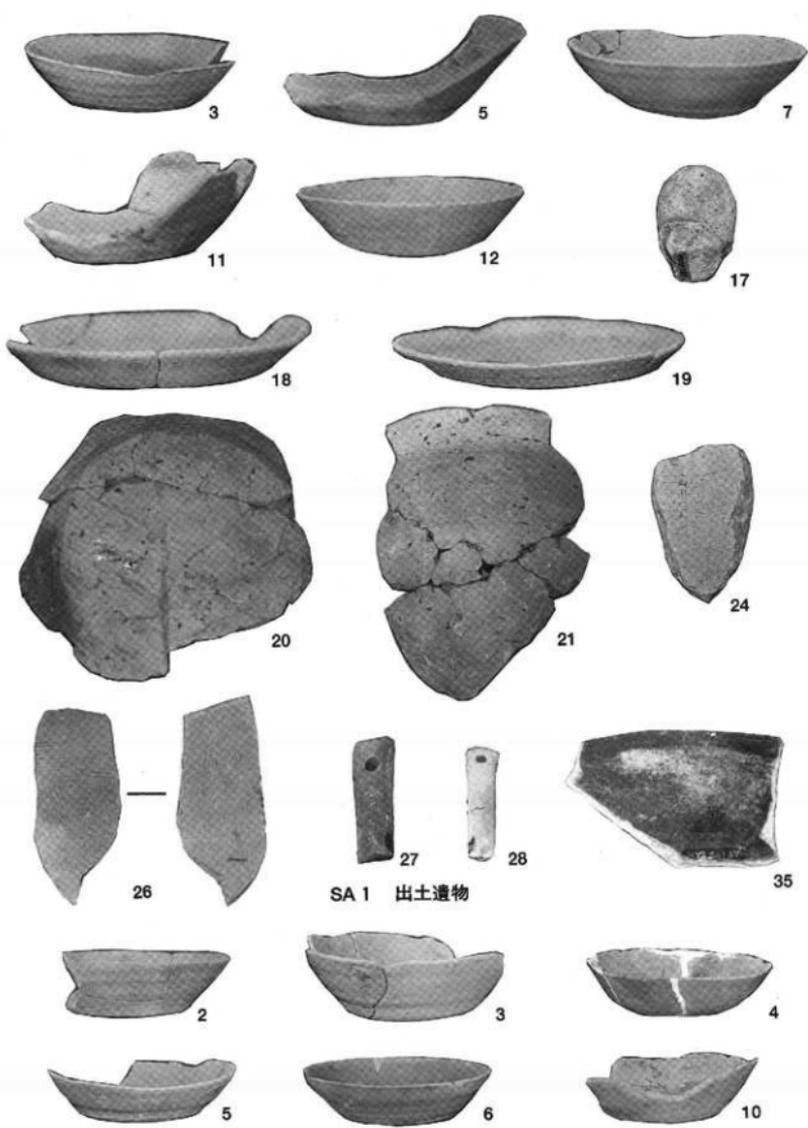
图版13
SA 3 完掘状况



图版14
SA 3 竈完掘状况



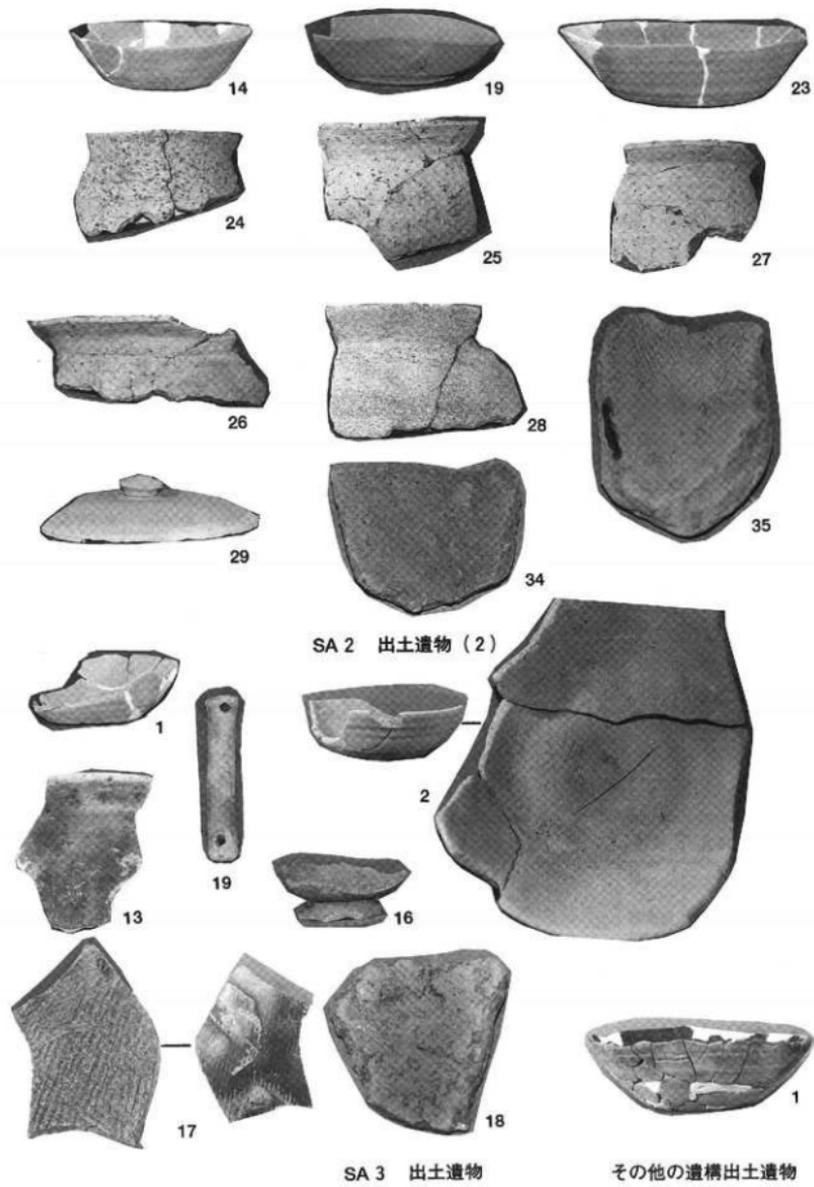
图版15
1号土坑完掘状况



SA 1 出土遺物

SA 2 出土遺物 (1)

図版 16 出土遺物 (1)



図版17 出土遺物 (2)

報告書抄録

ふりがな	きょうぞのいせき							
書名	京園遺跡							
副書名	ガソリンスタンド建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第34集							
編著者名	時任直也							
編集機関	宮崎市教育委員会							
所在地	〒880-8505 宮崎県宮崎市橘通西1丁目1番1号 0985-25-1111							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きょうぞのいせき 京園遺跡	みやざきけんみやざきし 宮崎県宮崎市 おほらまちみやぞの 大塚町京園	45201		31° 54' 20"	131° 24' 00"	19971011) 19971203	約600㎡	ガソリン スタンド 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
京園遺跡	集落跡	平安時代	溝状遺構 竪穴住居 土坑 土甕墓		土師器 環・甕 皿 須恵器 甕・高環 内黒土器 両端穿孔土鍾			

京 園 遺 跡

ガソリンスタンド建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年3月

発 行 宮崎市教育委員会
印 刷 愛文社印刷